

第2回西条市学校給食運営検討委員会 会議録

1 開会及び閉会

開会 令和元年6月24日(月) 午後3時00分

閉会 同 日 午後4時47分

2 出席及び欠席

出席者 委員10名(2名欠席)

事務局5名 合計15名

○支援業務事業者

復建調査設計(株)松山支店 担当者4名

3 次第

(1) 委嘱状、任命通知書の交付

(2) 委員長挨拶

(3) 支援業務事業者紹介

(4) 役員選出

(5) 議題

1. 西条市の学校給食運営・施設整備の検討

(1) 現在の給食体制の問題点について

(2) 県内他市の状況について

(3) 今後の給食運営・施設整備について

2. 今後のスケジュールについて

4 傍聴 3名(一般、マスコミ)

5 協議の内容(要旨)

1. 西条市の学校給食運営・施設整備の検討

(1) 現在の給食体制の問題点について(事務局より説明)

《質疑》

(2) 県内他市の状況について(事務局による説明)

《質疑》

副委員 ・他市の検討委員会ではどのような検討しているのか。

長

事務局 ・他市の詳しい内容については議事録等で確認しないとわからない。

西条市では教育長の諮問に対して、現在の給食体制の問題、今後の給食体制などについて、委員の皆様から意見をいただき、大まかな方向性を決定したいと考えている。皆様には、さまざまな意見をいただきたいと考えている。

- 委員 ・先ほどの説明であった「給食センター」と「共同調理場」の違い、「PFI 事業」について説明していただきたい。
- 事務局 ・1カ所で調理を行い数カ所の学校へ配送する調理場のことを給食センターや共同調理場と呼んでいる。呼び方は、各自治体によって違っており、規模や地域による。また、親子方式の調理場についても共同調理場である。PFI 事業は、民間の資金とノウハウを活用して、施設整備、維持管理や運営を行う事業である。給食センターでは比較的大きい5000食以上の施設でPFI 事業の効果が出るといわれている。
- 委員長 ・西条市では、小・中学校幼稚園での空調設備設置事業をPFI 事業で実施している。エアコンの設置から維持管理までを一括で発注している。

(3) 今後の給食運営・施設整備について（事務局による説明）

- 委員 ・他市の状況等見ていると、西条市においても給食センター化にしていきたいのか。自校方式の温かい給食も良いと思うが。
- 事務局 ・先ほど自校（単独）方式の継続は難しいという説明をさせていただいた。衛生面や施設の建替えの問題、人員問題など多くの問題を抱えている、そのような状況も説明させていただき、各委員さんより意見をいただきたいと考えている。
- 委員 ・地元は自校方式であるが、ほとんどの保護者が自校式のほうが良いと考えていると思う。
- 事務局 ・衛生面について説明させていただいたが、現在ウエットの施設では、ドライ運用をしていただいている。これまで大きな事故はないが、国の推奨する衛生管理基準の施設を整備するには、自校方式での実施は難しいと考えている。
- 委員 ・私はセンター方式の給食しか食べたことはないが、そんなに違いはないのかなと思っている。

- 委員 ・私は作る側の方であるが、正直言うと自校方式がいいと思う。子供たちには近くで作っているということで、におい、温かいなど効果は大きい。給食センターでの勤務では、単に食事を作っているという感じで、作る側のやりがいも感じている。食育という面では、身にしみている。
- 委員 ・市内の自校式の調理場では、食品を安全に保つための空調管理はどうなっているか。
- 委員 ・基本的に空調設備はなく、砂ぼこりなど外部からの進入を防ぐため、調理中は締め切っている。40度以上になることもあり、いい環境ではない。
- 委員 ・市外から転入してきた先生が西条市の給食は美味しいと言ってくれた。市内の丹原、小松の給食センターの800食ぐらいの小規模給食センターでは、あまり変わらないように感じる。
- 委員 ・自校方式が理想ではあるが、その継続は難しいとの説明があった。施設の建替えや衛生面など考えると、現実的なことも考えていかなければならないのかなあと思っている。
- 委員 ・センターがいけないとは思わないが、もしもセンターにするのであれば、どのような規模に分けていくのか。
- 事務局 ・市内には35校あり、1カ所にまとめる場合からさまざまなパターンが考えられる。地域の実情や既存施設の状況、配送距離など考慮して、支援コンサルタント業者にさまざまな想定をしていただき、次回以降に資料を提供していく予定である。
- 委員 ・他市でセンター方式に移行した事例もあるが、自校式では休日に学校行事で給食を行うこともあるが、センターの場合どのように対応しているのか。
- 事務局 ・センターの規模にもよると思うが、1校だけ給食がある場合の対応は難しいと思う。
- 委員 ・学校行事に合わせて小回りの利く対応などは難しいということか。

事務局 ・1校だけというのは難しいが、小松・丹原センターでは、管轄校で連絡協議会を組織しており、その中で調整して行事等に合わせた給食を実施している。

委員 ・センターの回転釜は大きすぎて、1校200食ぐらいの学校の場合、調理ができない。大きな学校であれば、出来ないことはないが小さな学校1校となると難しい。

委員長 ・給食センター管轄で毎週のように休日対応するとなると、いつも休日出勤することとなり、職員さんは大変である。自校式の場合は休日出勤した場合は振替休日がある。

副委員長 ・仮に給食センター方式になった場合、今の調理員さんの状況を踏まえて、組織として要望や意見はないか。

委員 ・センター方式やドライ方式の採用により、調理人員がどのようになるかわからない。現在の調理場は、正規調理員がどんどん減少し、平均年齢も50歳代と高く、若い人も入ってこない状況である。調理場の運営は年々苦しくなっている。

副委員長 ・若い人が少ない人材確保が難しいということは、給食現場の環境改善が必要であるのではないか。高齢の方でも働ける状況が必要ではないか。

委員 ・給食現場では、今後人材は集まらないのではないか。厳しい職場環境でもあり、少々の待遇改善など行っても若い人は難しいのではないか。

副委員長 ・そのような状況からすると、今後30年40年使用していく施設では、高齢者や未経験者などにわかりやすい動線や扱いやすい設備の採用ということも必要ではないか。効率よく作業できることで生産性を上げることも大切、税金で賄われているためランニングコストにも注意する必要がある。今後は、コンサルタント業者さんや市から出される情報をもとに、我々は気づいたことをお伝えしていくこととする。

副委員長 ・食育について何か意見はないか。

委員 ・地産地消というか、今日のメニューの作物の紹介、調理の状況を伝えることが大切。子供たちの想像力を育てる。自校式でなくても取り

組めるのではないか。

委員 ・西条でも個食や子供の貧困などの問題がある。同じメニューをみんなですべて食べる「給食」は大切である。子供たちには五感でさまざまな記憶が残る。西条の給食の良さは残してほしい。

委員 ・地元の食材を通じた学習や伝承、これを学ぶための教材（給食室）がなくなる。子供だけでなく、先生も給食への興味がなくなる。これに危機感を感じる。これから皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

副委員長 ・他にないか。

長

委員 ・給食の配膳、食べ残し、食材の生産者との交流など

委員 ・私の地域では、幼稚園は弁当、小・中学校は給食、高校では弁当となる。小・中学校でもお弁当の日を実施することで、家庭環境等の把握、食育の意識づけにつながるのではないか。

委員長 ・栄養教員部会の担当をしている。私の学校はセンターであるが、定期的にセンターの栄養教諭が来てくれている。食物アレルギーの対応についても、保護者との面談などしてくれている。栄養教員部会では、チャレンジ・ザみそ汁など様々な取組をしていただいている。

委員 ・私はセンターしか知らないため、自校式の良さはあまり知らない。給食の良さは栄養バランスの良さであり、各家庭では偏った食事になる可能性がある。家庭では家庭の良さがあり、給食には給食の良さがあると思う。わが校では、センターでの調理を見学することで、調理する方への感謝など、食育や学習はできていると思う。

副委員長 それぞれの良さがあるということである。家庭でも食育に取り組んでいただきたい。

その他に意見はないか。

（特に意見なし）

副委員長 今回の検討会の実施にあたり、事務局より各委員へ、学校給食への要望調査を実施したと思うが、どうなっているか。その回答をいただきたい。

事務局 委員さん1名より要望をいただいているので回答をさせていただく。
要望①学校給食運営について、「直営」で行ってほしい。
回答) 給食運営については、責任ある給食、調理員さんとの触れ合いなどの点で、大切であると考えている。今回は施設整備から検討しており、完成した施設をどう運営するかについても検討する予定である。委員の皆様から「直営」の良さなど、さまざまな意見いただき検討していきたいと考えている。
要望②検討会で女性や子供たちの意見を聞くことはできるか。
答え) 今回3名の女性委員に入ってもらっている。子供たちの意見については検討会で直接聞くことはできないが、何らかの方法で子供さんの意見についても、反映していきたいと考えている。

委員長 ・現在自校給食をしている学校については、皆さんその良さを認識しているところですが、さまざまな環境や今後を考えると、給食施設のある程度の集約も必要ではないかと考える。現在の施設の問題、調理員さんの高齢化など、さまざまな問題を勘案しながら、今後、コンサルタント業者さんの提供する資料、パターンをもとに検討していきたいと考えるがいかがでしょうか。ご意見をいただきたい。

(特に意見なし)

委員長 ・次回からは、集約化も視野にいくつかのパターンなどについて検討を始めることとします。事務局、よろしいでしょうか。

事務局 ・ありがとうございます。教育委員会では、施設整備・給食運営についての大きな方向性について、5本の柱を考えている。
①安全で安心な学校給食の提供 ②栄養バランスのとれたおいしい給食の提供 ③食育・地産地消など推進できる施設・体制 ④働く人の環境に配慮した施設づくり ⑤将来にわたり安定かつ効率的な供給体制 重点において、出来るだけ早く施設整備、給食体制の見直しを行いたいと考えていますので、ご協力いただきたい。

2. 今後のスケジュールについて (事務局による説明)

- ・ 次回は7月末頃に開催予定
- ・ 先進地視察の実施について

《質疑》

委員 ・開始時間は15:00からなのか。

事務局 ・市外の委員さん、調理員さん、栄養士の先生が午前中は大変忙しいために、午後の開催としている。

委員 ・2回目の検討会の予定は5月下旬であった。1か月近く遅くなった。予定通り開催してほしい。7月下旬で大丈夫か。

事務局 ・7月下旬から8月初旬で調整することとする。先進地視察は実施する。視察先については事務局で調整する。

委員長 ・以上で本日の議題は終了する。ご協力ありがとうございました。

○その他

・市内調理場の見学

本日 17:00～18:15 神拝小学校給食室、大町小学校給食室
検討委員 8名参加（希望者のみ）